

緑区教育研究会

1 研究主題「コロナ禍の中でもできうることを」

2 研究主題について

令和2年度は、4月5月の休校に伴い研究会がスタートしたのが6月になってからという状況であった。しかも、そのスタートした6月によりやく各研究会の部長等の決定となった上に、感染症対策のため、緑区では「原則各校1名参加の体制での研究会」という制限も設けることとなった。加えて、本年度の区授業研究会は、全て中止となり、授業公開はそのまま次年度に持ち越されることとなった。このような厳しい状況下ではあるが、本年令和2年度は、新学習指導要領全面実施の年であり、本格的に「主体的・対話的で深い学び」の理念に沿った授業改善に取り組むとともに、それに伴う学習評価についての研究も深めなければならない年度である。そのためには、このコロナ禍の中ではあっても、私たち教師は学びを止めるわけにはいかず、区研究会が果たすべき役割には大きなものがあると考え、「このコロナ禍の中でもできうることを」と研究主題を定め、6月からの研究をスタートさせることとした。

3 研究方法（コロナ禍で工夫したこと含めて記入）

- ・3密を避けてのグループ交流（情報交換、ワークショップ）、出前授業、実践提案、講演会の実施
- ・ZOOMでの開催を取り入れた。パワーポイントを使って提案したり、授業改善に迫るための討論会を録画し参会者と一緒に考えたりして、学びを止めない工夫での研究を進めた。
- ・感染症対策として、各校1名での参加が原則であったので、webメールを活用し、事前にテーマを部員に伝える取り組みをした。
重要な内容の講習会については、全部員が参加できるように緑公会堂を会場とし、合同研修会を開催した。
- ・授業研が行われる日に、指導主事を招いて体育科保健領域と特別活動の新学習指導要領について学んだ。

4 年間の主な活動(事業)報告

- | | |
|-----------------------|-----------|
| (1) 緑区小学校教育研究会総会紙面総会 | 9月7日(月) |
| (2) 授業を伴う研究会 | |
| A・B研とも コロナ感染症により中止 | 令和3年度に順延 |
| (3) 読書感想文審査会 | 9月23日(水) |
| (4) 児童書写展 | 10月～12月 |
| (5) 児童巡回絵画展 | 11月～12月 |
| (6) 区スポーツ交流会 | 11月 |
| (7) 読書感想画審査会 | 12月16日(水) |
| (8) 緑区小学校教育研究会年度末紙面総会 | 3月15日(月) |

5 研究の成果と課題

《成果》

- ・ Teams や Zoom といった Web 会議サービスや、市の全職員共有フォルダーを活用し、緊急事態宣言発令後であっても、途切れることなく研究を進めることができたことも一つの成果といえる。また、情報交換の内容が、研究主題に関わるものよりもGIGAスクール構想関係の方が今年度は特に多かった。しかし、一人一台のiPad、各教室の保管庫、教育委員会からの調査・依頼や、校内の情報組織の見直しなど、各校の情報部が行う業務を情報交換し、共有することが、ひいては緑区全体の教育力の向上へとつながっていくと思われる。
- ・ 保健室経営グループでは、今すぐみんなが使える教材作りをモットーに、熱中症指数表や健康診断・就学時健康診断時のソーシャルディスタンス確保のための足型のイラスト、健康診断時の説明用ポスター等を作成した。
- ・ 家庭科グループでは、コロナの影響で調理実習を行わない学校が多かったことから、給食時間に「だしを使わないみそ汁」と「だしをとって作ったみそ汁」を飲み比べる活動を計画・実践した。「みそ汁の飲み比べ活動」では、「だしのうまみや効果」を実際に体感する事で児童の学びを深める事ができた。今後も食育を効果的に推進し、食に関する指導目標の達成を目指して食育全体計画と資料等の研究を進めていきたい。

《課題》

- ・ 人との関わりが難しい状況で、研究主題に迫っていくには、十分ではなかったと感じた。コロナ禍の中でも、「人の営みから学ぶ」ために、教材研究をはじめ、オンラインツールの活用など、来年度に向けて今年度の研究を生かしていきたい。
- ・ コロナ禍の中、実践が難しく研究が深められなかった部分もある。研究主題や内容は継続するとよい。
- ・ 新型コロナの影響でオンラインになったとすると、実践提案にて児童の作品を実際に見ることができないので、よりよい方法を模索することになると思う。
- ・ 今年度、未履修の単元を次年度の学年で実施するための工夫が必要
- ・ ワークショップで話し合い、目指す姿を共有してきたが、一方で実践が伴っていないため、今後の実践を重ねていく必要がある。

本年度緑区小学校教育研究会では、「このコロナ禍でもできることは何か」ということを模索しながら研究を進めてきました。まず、授業研究会が中止となったため、各教科領域ごとに講師を招いての講演会形式での研究会の充実が見られました。コロナ対応に追われてはいますが、令和2年度は新学習指導要領全面実施の年、それに伴う学習評価も大きな課題でしたので、講師から学校再開時の早い段階でご指導いただいたことは、大変有意義でした。また、子どもたちに直接に関わる活動としては、5年生の区球技大会に替えてのスポーツ交流会の実施がありました。この試みは、単にブロック内の5年生の子どもたちの交流に留まらず、パラスポーツへの理解にも繋がっていく意義深い試みとなりました。さらに、緑区小学校16校で図画工作の作品を見合うぐるぐる展も実施して、子どもたちの鑑賞の学習にも役立てることができました。いずれにしても、この厳しい環境の中、各研究会で議論を重ね、区校長会で話題にあげながら、時間をかけて実現に至った取組でした。私は、このコロナ禍の中、各研究会の部員が子どもたちのために知恵を出し合っているその過程こそが、人材育成につながった1年であったととらえています。

結びに、本研究会の運営にご尽力いただきました教職員の皆様と、ご指導くださいました講師の先生方、横浜市教育委員会の皆様に心よりお礼申し上げます。